

<概要版>

栃木市上下水道事業調査委員会(第1回)会議録

開催日時	令和7年6月30日(月) 10:00～11:45
開催場所	栃木市役所 正庁
出席委員	藤井亮二委員、湯川晴美委員、岡田真由美委員、和久井賢司委員、門沢イミ子委員、青木晴美委員、葛生明雄委員、田島富美子委員、荒木正孝委員、安藤宣好委員、池澤佐知子委員、大浦兼政委員、市村隆委員 以上13名
市	上下水道局長 上下水道総務課：課長、副主幹兼経営係長、課長補佐兼経理係長、副主幹兼料金係長、経営係職員 水道建設課：課長、課長補佐兼施設係長、主幹兼建設管理係長、副主幹兼給水係長 下水道建設課：課長、課長補佐兼管理係長、建設係長、課長補佐兼保全係長
局長あいさつ	押山局長よりあいさつ
委員長あいさつ	藤井委員長よりあいさつ
議事概要	(1) 栃木市上下水道事業調査委員会について（副主幹兼経営係長より説明） 【委員質疑】 なし (2) 令和7年度上下水道局の運営方針について（各課長より説明） 【委員質疑】 管路耐震化事業について、栃木市内で布設替えをしなければならない総延長数はどれくらい残っているのか。 (回答) 塩ビ管については、令和6年度末現在で約275キロメートルである。 【委員質疑】 275キロメートルということは年間3キロメートルでやっていくと、90年かかる計算となる。管の耐用年数は40年なので、破綻していると感じる。年間3キロメートルというのは、毎年決まってやっていくものなのか。 (回答) 耐震化事業も含めて、全体の中から計画を立てている。施設など優先的にやらざるを得ないものもあるので、できる範囲の中で計画をして耐震化を進めていきたいと考えている。

【委員質疑】

一般的な塩化ビニル管の耐用年数は何年か。

(回答)

40 年である。

【委員意見】

いたちごっこになってしまうと感じる。財政等の様々な意味からの話になるが、もう少し市民にわかるように説明をして、できるだけ早く更新していかなければならないと思う。簡単に結論の出る話ではないが、一つのテーマであると思う。

【委員質疑】

この問題は財政的な問題だけなのか。職人や施工業者の関係もあるのか。

(回答)

お金が増えればできるという話もあるかもしれないが、施工する業者の数等も含めて、1 年間でできる数を検討させていただきたいと思う。今後の地震に備えて、調査委員会のご意見も含めながら検討していきたい。

【委員質疑】

残っている 275 キロメートルは、全体の内の大体何パーセントか。

(回答)

約 23% である。

【委員質疑】

塩ビ管だけでなく、铸铁管についても全国的に耐用年数を超えているところが出ていと思うが、財政的な問題もあり、取り急ぎ塩ビ管をやっているということなのか。

(回答)

取り急ぎ一番危ない塩ビ管を重点的に取り替えている。

【委員質疑】

ゆくゆくは铸铁管や他の管も耐用年数を超えてくると思うが、その辺はどのように考えているのか。

(回答)

铸铁管や他の管についても、老朽化も含めて調整しながら随時修繕していく。

(3) 令和 7 年度公営企業会計予算について（課長補佐兼経理係長より説明）

【委員質疑】

人口減少に歯止めが効かない現状で、人口が何人になってしまうと破綻をきたす可能性が出てくるといふものは計算しているのか。

(回答)

水道ビジョンにおいては、人口が緩やかに減少していくことに伴い、給水収益が徐々に減少していく一方、物価上昇等により費用は増加していき、令和 11 年度

に水を作るための費用である給水原価と、1立方メートルあたりの水道料金である供給単価が逆転し、令和12年度には純利益がマイナスになってしまうという試算をしている。そうなってもすぐに破綻するわけではないが、徐々に悪化していくという見込みである。

【委員質疑】

一般会計でも50億足りないという状況になっており、今後基準内繰入も厳しくなってくることを考えられる。抜本的な大改革として、広域連携も必要になってくるかと思うが、今後どのように進めていくのか説明をお願いしたい。

(回答)

水道事業の広域連携ということで、現在、栃木市、佐野市、足利市、鹿沼市の4市で協議会を立ち上げて協議を進めている。一般会計の予算も厳しいという話については、雨水公費、汚水私費の原則はあるが、なるべく基準内の繰入についても少なくできるよう、効率的な事務運営を行っていかなければならないと考えている。

(4) 水道ビジョン、下水道事業経営戦略の概要について（副主幹兼経営係長より説明）

【委員意見】

栃木市は有収率が70.06%と全国平均の89.76%を大幅に下回っており、漏水対策に課題があると感じている。その中で、現在人工衛星を使った漏水調査にも取り組んでおり、そういった取り組みを市民に伝えていくことも我々調査委員会の一つの使命であると考えている。議会とも連携しながら、これから人口減少に向かう中で、どうやって事業を継続していくかをみんなで考えていきたいと思う。

【委員質疑】

栃木市全体の総合戦略に関わってくることだが、人口密度が低すぎるというのが、財政状況が悪化していく現状であり、しっかりとコンパクトシティを目指すことも必要である。人口密度を上げていく施策を総合政策の名のもとに進めていただきたい。それには市民の協力が必要なので、そういった対策も検討していただきたい。

(回答)

貴重なご意見に感謝する。いただいたご意見を踏まえ、毎年どのように安定的な運営をしていくかを常に考え、改善していく必要があると考えている。

(5) その他

・令和6年度決算見込みについて（上下水道総務課長より説明）

【委員質疑】 なし

- ・施設設備等点検の取り組みについて（副主幹兼経営係長より説明）

【委員質疑】 なし

- ・水質の状況について（副主幹兼経営係長より説明）

【委員質疑】 なし